

# つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

展示予告

## 雑司が谷案内処でまちかど遺跡ミュージアム



ケヤキ並木道に一際目立つ、モダンでお洒落なたたずまいの案内処

江戸時代、雑司が谷鬼子母神の門前は、物見遊山を兼ねて参詣する客をもてなす料理・茶屋が軒を連ねており、当時は活気に満ちていた地域でしたが、現在は江戸時代から続くお店は存在せず、参道沿いに往時を偲ばせるような建物はありません。

雑司が谷案内処（以下、案内処）は、昨年7月に開館したばかりですが、当初から地元の方々や観光客の注目を集め、またメディアなどに取り上げられることもあり、大変話題になっています。案内処は、雑司が谷地域文化創造館が、歴史と文化に溢れた雑司が谷地域の魅力を内外へ向け広く発信していくための拠点として開館しました。この度、そのような場所で展示を実施する機会を頂くことができました。雑司が谷遺跡で発掘調査を行っている、地域住民の方々の考古学（歴史）に対する関心の高さを感じます。こうした地域でどうにか遺跡の展示ができないものかと常々考えていたので、案内処からの展示依頼は願ってもない話でした。2月5日（土）スタートの“雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム”『鬼子母神参道 江戸のにぎわい』では、江戸時代に賑わいをみせていた鬼子母神門前の料理・茶屋の様子を発掘調査の成果から覗いてみたいと思います。

# NPOまつりに行こう！

## －「第5回社会貢献活動見本市」のご案内－

「社会貢献活動見本市」は、豊島区内で社会貢献活動を行っている諸団体の活動内容をポスターセッション形式で、一般の方々に紹介する催しです。毎年年度末に行われ、としま遺跡調査会も何度か参加してきましたが、今回も、日頃の活動を皆様に知って頂きたいという思いから参加することになりました。子供の支援活動やエコ活動、音楽活動などを行っている団体が参加する中、ひととき異彩を放つ我等としま遺跡調査会。年間を通しての多彩な活動内容を一挙公開！ 会員の皆様にはイベントなどでしかお目にかかれない調査員も、当日には会場で待機しております。雑談の中から、思わぬ調査のウラ話などが聞けるかも?! 是非おいでください。お待ちしております。(高木翼郎・両角まり)



雑司が谷案内処展示で使用するパネル類作成が急ピッチに進められています



－昨年に出展した見本市パネル展示の様子



2月5日(土)は、雑司が谷案内処における展示(初日)と、区立勤労福祉会館の見本市が同日に開催されます。会場である案内処と区立勤労福祉会館は、徒歩で15分ほどの近い距離にありますので、それぞれのイベントの見学ついでに池袋や雑司が谷を散策されてはいかがでしょうか?



### 雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム

#### 『鬼子母神参道 江戸のにぎわい』

展示期間：平成23年2月5日～3月16日

場所：雑司が谷案内処

開館時間：午前11時～午後4時

休館日：毎週木曜日

入館料：無料

問合せ先：雑司が谷案内処

【Tel】03 - 6912 - 5026

【Mail】zoushigaya-a@citrus.ocn.ne.jp

#### 交通手段

- 都電荒川線「鬼子母神前」駅より徒歩1分
- 東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅  
1番出入口より徒歩2分
- JR山手線「目白」駅より徒歩10分
- 「池袋」駅東口より徒歩14分

### 第5回社会貢献活動 見本市

日時：平成23年2月5日(土)

午前11時～午後5時

会場：豊島区立勤労福祉会館6階 大会議室

備考：入場無料。ポスターセッションパネルディスカッション・パフォーマンスなど。

「池袋」駅より徒歩3分



# 平成 22 年度事業報告・会計収支報告

平成 22 年 11 月 12 日に当会第 5 回定期総会が行なわれ、平成 22 年度（平成 21 年 10 月 1 日から平成 22 年 9 月 30 日まで）の事業報告とこれに伴う会計収支、また、役員選任等が決定致しましたので、ご報告いたします。

## 1. 事業報告

### 1) 発掘調査

豊島区教育委員会と連携して区内 19 カ所で合計 23 件の埋蔵文化財試掘調査・本調査を実施しました。染井遺跡では、津藩藤堂家染井屋敷内の空間構成を考える上で貴重な事例を加えることができました。また、試掘調査では、雑司が谷遺跡内に所在する法明寺鬼子母神堂の境内に、初めて考古学的なメスを入れることができました。このほかの遺跡でも新しい発見があり、それぞれの地域の歴史を考える上で貴重な情報を得ることができました。

### 2) 調査報告書作成

2 冊の豊島区刊行報告書および 2 冊の豊島区遺跡調査会報告の刊行に協力するとともに、昨年度に初めて『としま遺跡調査会調査報告』3 冊を刊行することができました。都合 7 冊の報告書刊行に携わったこととなります。

### 3) 普及啓発

染井遺跡で都合 4 回にわたり遺跡見学会を実施しましたが、うち 2 回は豊島区の委託事業でした。こ

の他に、豊島区からの委託事業としては、平成 21 年 11 月に「雑司が谷鬼子母神と料理茶屋」、平成 22 年 9 月に「江戸時代の巢鴨をあるく」と題する区役所本庁舎ロビー展示、および東京地下鉄副都心線雑司が谷駅構内の雑司が谷遺跡紹介パネルの展示替え（雑司が谷の中世の道）、そのパネルの保守点検作業などを行っております。なお、この展示パネルの見学会も実施しました。

### 4) 人材育成

豊島区からの委託を受け、平成 21 年 10 月に染井遺跡で区内の小・中学生を対象とした発掘調査および出土遺物の水洗・復元作業の体験学習「レットライ考古学」の実施に協力しました。同様に、区立勤労福祉会館と連携して、「考古学に学ぶ豊島区の歴史」と題する区民講座（連続 4 回）を平成 21 年 10 月～11 月に実施しています。また、同じ形で平成 22 年 5 月から通年で 10 回にわたる考古学講座「豊島区を探る」を開始し、昨年度内に 4 回分が終了。残り 6 回は平成 23 年 3 月まで継続されます。

## ＜特定非営利活動に係る事業＞

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の延人数	受益対象者の範囲および人数	支出額(千円)
発掘調査	埋蔵文化財包蔵地等での遺跡の発掘調査・試掘調査・基礎整理作業および立会い調査補助作業	10月1日～9月30日	豊島区内	117人	豊島区民 不特定多数	46,310
整理調査	発掘調査の記録・出土遺物等の整理作業	10月1日～9月30日	豊島区 巢鴨複合施設内	154人	豊島区民 不特定多数	18,559
報告書作成	報告書4冊の編集・刊行への協力および、調査会報告書3冊の刊行。	10月1日～9月30日	豊島区 巢鴨複合施設内	22人	豊島区民 他 450人以上	287
普及啓発	「つたのは通信」及び「調査速報」発行、展示会・遺跡見学会等の開催協力および実施等	随時	豊島区内	87人	主に豊島区民 不特定多数	493
人材育成	豊島区「レットライ考古学」開催協力及び考古学講座の開催協力。	10月10日、10月31日、 11月14・21日、5月8日、 6月12日、7月10日、 9月11日	発掘調査現場、 勤労福祉会館	35人	主に豊島区民 不特定多数	319

## 2. 会計収支報告

会計収支計算の結果、109 円の収益が前年度繰越額と合わせて 124,821 円となりました。正会員・賛助会員様の会費は、前年度繰越額と合わせて

147,895 円となりました。会費の繰越に関しましては、会員様に向けた企画に充てていきたいと考えております。



＜平成22年度 会計収支決算書＞

(単位：円)

科 目	金 額		
I 収入の部			
1 会費・入会金収入			
会費収入	30,000		
賛助会費収入	25,000		
入会金収入	7,000	62,000	
2 事業収入			
発掘調査事業	65,780,197		
整理作業	11,361,276		
報告書作成事業	287,700		
普及啓発事業	493,210		
人材育成費	319,595	78,241,978	
3 補助金等収入			
短期借入金収入	1,000,000	1,000,000	
5 その他収入			
利息収入	18,045		
雑収入	200,600	218,645	
収入合計 (A)			79,522,623

科 目	金 額		
II 支出の部			
1 事業費			
(1) 発掘調査事業費	46,310,813		
(2) 整理調査事業費	18,559,475		
(3) 報告書作成費	287,700		
(4) 普及啓発事業費	493,210		
(5) 人材育成費	319,595	65,970,793	
2 管理費			
賃金	5,617,923		
厚生費	3,439,387		
顧問料 (税理士報酬)	120,000		
研修費	66,760		
役務費	45,845		
需用費	568,219		
施設費	224,600		
使用料・賃借料	1,059,787		
租税公課	1,409,200	12,551,721	
3 その他支出			
短期借入金返済支出	1,000,000	1,000,000	
支出合計 (B)			79,522,514

当期収支差額 (A) - (B)	109
前期繰越収支差額 (C)	124,712
次期繰越額 (A) - (B) + (C)	124,821

＜平成22年度 会費収支決算書＞

(正会員・賛助会員費)

(単位：円)

科 目	金 額		
I 収入の部			
1 会費・入会金収入			
会費収入	30,000		
賛助会費収入	25,000		
入会金収入	7,000	62,000	
2 その他収入			
利息収入	43	43	
収入合計 (A)			62,043

科 目	金 額		
II 支出の部			
1 会費・入会金支出			
会報送送料	7,640	7,640	
消耗品			
宛名 シール	630		
交通費(総会)	3,000		
ラベル用紙	850		
会員カード用紙	960	5,440	
支出合計 (B)			13,080

当期収支差額 (A) - (B)	48,963
前期繰越収支差額 (C)	98,932
次期繰越額 (A) - (B) + (C)	147,895

3. 役員を選任

理事は、前年度から引き続き菊池徹夫（理事長）、山口廣（副理事長）、根岸豊、橋口定志が再任となりました。新たに、当会職員の柳谷博が理事に選任され、監事には豊島区民の方および行政経験のある考古学研究者にお願いしました。

平成23年度の事業も、文化財の保護・普及啓発活動等に力を入れてまいります。

今年度もよろしくお願いたします

10月実施予定のレッツトライ考古学は台風接近のため中止

昨年10月30日に開催予定であった親子発掘体験“Let's Try 考古学”（豊島区教育委員会主催）は、季節はずれの台風が接近した影響により中止となりました。多数の応募を頂き、また区外の方からの応募もあり、参加者及び職員一同ともに楽しみにしていたので、この結果は非常に残念です。しかし、来年度以降も当イベントは計画しておりますので、再度のチャレンジをお待ちしております。なお、配布予定であった資料は、ホームページに載せました。

## 巢鴨遺跡 2 地点の発掘調査速報

巢鴨遺跡は主に江戸時代の遺跡で、当時は中山道（現在の地藏通り）沿いに武家屋敷や町家（巢鴨町）、寺院（江戸六地藏の一つを安置する真性寺）が建ち並んでいました。ここはまさに大都市「江戸」の末端で、そこから先は江戸の郊外にあたります。年明け早々、巢鴨遺跡の2カ所で発掘調査が始まりました。

まず1ヶ所目は地藏通りに面した町家の発掘です。この地点の出土遺物には高級な磁器が少なく、比較的廉価な陶器や土器が多く見受けられ、まさに庶民的な雰囲気漂います。幕末の史料には「鳶人足 善蔵」とありますが、果たしてどうでしょうか？



地藏通りに面する発掘現場

そして、2ヶ所目は、地藏通りから100m程奥に入った場所（真性寺の南方に所在）での発掘です。ここは、巢鴨町と巢鴨村の境付近と思われる場所です。調査はまだ半ばではありますが、近代以前の建物の土台と思われる礎石列などが見つかっています。出土遺物は少量です。通常、中山道に近い空間では、物が多く捨てられ、その結果、発掘調査において遺物として出土します。通り側と奥まった場所では、様子が異なるようです。これが、村と町との違いなのか、はたまた、別の要因によるものなのか、今後の検討課題となりそうです。

（宮川和也・山崎吉弘）



撮影用に礎石をきれいに検出中

## 発掘調査の成果が報告書として続々刊行



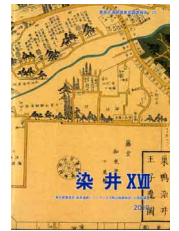
### 『染井XVI』 豊島区埋蔵文化財調査報告 31 染井遺跡（三菱重工巢鴨社宅地区）

本書は昨年10月に刊行されました。今回の報告地点は江戸時代の武家屋敷、津藩藤堂家染井屋敷の一角です。ここは屋敷範囲の南端、言わば武家屋敷の外周部にあたっています。主に発見された遺構は「植栽痕」。これは樹木を植えるとき、あるいは抜き取るときに掘られた穴です。これらが、調査区を東西方向に延びる「堀」の南側に累々と発見されるさまは、ある意味壮観です。どうやら、ここは屋敷の庭園空間であったようです。藤堂家染井屋敷の庭園については、当時の文献史料などに時折描写されていますが、具体的な様子はわかっていません。今回の発見は、それを解き明かす手始めになるかも知れません。

（宮川和也）

### 『染井XVII』 豊島区遺跡調査会調査報告 25 染井遺跡（パークハウス駒込桜郷地区）

本書に収録した調査地点は、上記の『染井XVI』と同じく津藩藤堂家の染井屋敷の一角にあたります。本地区で検出された近世から近代にいたる遺構群の変遷は、大きく4段階に整理することができました。中でも、第二段階（18世紀中葉～後葉）に出現した、全長約38mの規模を有し、2万点を越す遺物が出土した1号遺構は興味深い遺構の一つです。1号遺構中層からは夥しい量の炭化材と被熱した陶磁器が出土しています。染井屋敷が、火災に見舞われたことがこうした出土遺物よりみてとることができます。（高木翼郎）



#### 【刊行報告書】

『染井XVI』 A4 438p 1,619g 価格：3200円

『染井XVII』 A4 274p 1,090g 価格：2000円

※詳しい頒布方法につきましては、当会までお問い合わせ下さい。



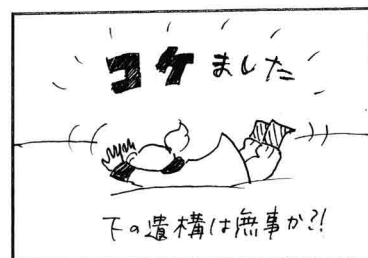
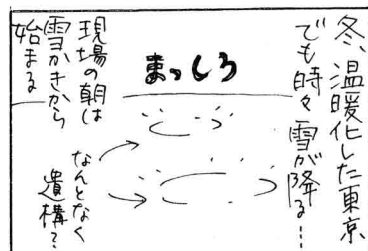
## 英文要旨ができるまで

～日本語と英語にはさまれて～

発掘調査報告書には、Summary（英文要旨）という項目がある。その内容は、発掘調査が行われた地点や調査期間、調査地区周辺の地理的・歴史的環境、発見された遺構や遺物の説明、そして発掘調査で明らかになった事柄をまとめたもので、担当者が書いた日本語の原稿を英語に訳するのが私の作業である。遺跡の立地や調査の工程について書かれた冒頭は、英語圏の発掘調査報告書にも同じようなことが書いてあるので、スムーズに進められる。ちなみに、発掘は excavation、遺構は feature、遺物が artifacts と訳す。しかし発掘調査の詳細が書かれた後半部分に入ってくると、頭を抱えることが多い。例えば区内の発掘調査でお馴染みの「植木屋」であるが、辞書を引くと gardener という訳語が出てくる。しかしよく調べてみると、gardener という単語が指し示す範囲は、住み込みの庭師から、趣味で庭いじりをする人まで含んでしまい、江戸時代の「植木屋」の範囲よりもかなり広い。なので、より当時の植木屋に近いイメージを伝えるために、「植木・花卉を栽培し、また売ることを生業としている人」という意味の英文を補足することがある。ついでながら、植木屋に関する用語として「植栽痕」は planting pit (pit は小さい穴の意)、「植木鉢」は planting pot と訳される。それから、身近なものでありながら訳すのに困る単語として「飲食器」「食膳具」がある。辞書を引くと、tableware という単語が出てくる。飲んだり食べたりするための容器を指すという点では良いのだが、基本的にテーブルではなく膳で食事をしていた時代の容器に対して tableware が果たして適切なのかどうかと考えてしまう。日本語と英語、それぞれの言葉が持っている文化的イメージのギャップに挟まれながら、両者を擦り合わせて練り上げていくのがこの作業の醍醐味なのかもしれない。

(小泉なな)

がんばれ  
モ調査員 ⑧



発掘現場では、遺構・遺物が一番大事！不注意で遺構や調査区のヘリを壊してしまうと、現場担当者に怒られるので、皆さん(☹)も気を付けましょう。

【編集後記】 新年あけましておめでとうございます。今号から(翼)が担当させていただきますことになりました。これから、発掘調査やイベント情報・オモシロ話を提供していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。(翼)

編集・発行

特定非営利活動法人  
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-8-9 巣鴨複合施設 201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：http://www.toshima-iseki.org/

「つたのは通信」の由来：蒔は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蒔の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：千葉弘美

マンガ：(翼)